



都城市の木「けやき」 発行：都城市教育委員会「都城市教育研究所」 〒885-8555 都城市姫城町6街区21号都城市庁舎南別館3階

研究所だより



問い続けることの意味

都城市教育委員会
学校教育課長 宮崎 誠



学校教育課長を拝命して、4か月が経過した。責任の重さを感じながらの毎日である。今回、「研究所だより」巻頭言の依頼をいただき、何を書くか迷ったが、少し自分のことについて書いてみたいと思う。

『「教職」とは〇〇な仕事である』

私が教職員向けの研修講師を務める際、お互いの緊張した状態をやわらげたり、講師として受講者の前に立っている自分が何者であるかを説明したりする自己紹介代わりに、問い続けている問いである。

- ・ 未来を生きる子どもを育てる重要な仕事。
- ・ 子どもとともに学び、自分自身が成長し続けることのできる仕事。
- ・ 寝ても覚めても子どものことを考え、努力しているのに報われることの少ない仕事。

様々な経験年数・職種の教職員に問い続けている。ポジティブな回答が7割くらい、ネガティブな回答が3割くらいで、両方の側面があるという答えも多くいただいた。もちろん「正解」などなく、その回答者がどうとらえているかを確認するために、問い続けている。

平成3年に中学校国語科の教員として採用され、教職



に就いた。大学を卒業したばかりの私を「先生」と呼ぶ子どもたちを前に、若いから、経験がないからといって、いい加減なことではできないと思った。分からない、うまくいかないことばかりで、先輩たちに聞いたり、真似をしたり、思い返すと恥ずかしいことの方が多いが、自分なりに必死だった。生徒や保護者に十分な対応ができないことも多かったと思う。つくづく自分は「教職」に向かないと思い悩んだ。



「教育」に関する研究は多く、教育書は求めれば手に入ることも多い。しかし、「教職」について研究している研究者は当時多くなく、求めたが本にも答えは載っていない。どのように考え、どのような心の「構え」でこの仕事に向き合えば、「いい先生」になれるのだろうか……。そもそも「いい先生」とは何だ……。

以来、ずっと「教職」という仕事について問い続けている。何年も前向きに「教職」を続けることのできる人、自信を失ったり、心身を病んだりして「教職」を離れる人。何かが違うから、結果が違うのではないかと。

最近で言うと、教員のなり手不足、ブラックと言われる教職員の働き方……「教職」は課題が多く、解決もままならない。

自分でも答えが出ているわけではないが、その人なりの「構え」ができれば、前向きにやりがいを感じながらこの仕事に向き合えるのではないかと考えている。厳しさはあるが、真摯に向き合うに足る仕事でもある。

本市の教職員やこれから「教職」を目指す若者が、少しでも明るい未来を思い描くことができるよう、微力ながら力を尽くしたいと考えている。

学びを俯瞰する楽しさ

曾原 良平

かつて都城の学校では、金御岳登山や高千穂峰登山が、学校行事として行われていた。険しい山道を友達と協力して登り、ようやく辿り着いた頂上から眺める都城盆地の風景は格別なものだ。高所から見下ろすことや、全体把握することを俯瞰というが、都城盆地の中にある学校や自宅を探してみようとするのは楽しい経験だった。

さて、本年度も教育研究所では、都城市学校教育ビジョンで示す「子どもたちが主役の授業（わ・さ・び）」の充実に取り組んでいる。脇役に徹する「わ」、先を読む「さ」、微細な変化に気づく「び」は、目指す教師の姿である。子どもたちの重要なツールの一つは、タブレット端末だ。意見を交流する場を設けたり、整理・分析して表現する場を設けたりすることもできる。

しかし、子どもたちに学習の主導権を渡しても、どう学べばよいのか分からなければ、効果的な学びは期待できない。

そこで、俯瞰である。子どもたちが学習計画を立て、課題を設定し、情報収集して分析し、解決・表現するという学習過程を、子どもたち自身に俯瞰させ、教師も俯瞰する。この段階で、こんな力が自分に身に付いたと振り返らせることが力になっていく。このような学習経験を繰り返し積み重ねることにより、子どもたちは、自ら計画を立て、解決に向けて動くことができるようになるはずだ。子どもたちが主役の授業とは、目先のことでなく全体を把握して本質を理解できる子どもを育てる授業であろう。



I 研究主題

子どもたちの未来に向かい、学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上を目指す授業の創造
～ ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの工夫～

II 主題設定の理由

情報化やグローバル化の「Society5.0」時代の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明で予測困難な急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

このような中、令和3年1月の中央教育審議会答申において、個に応じた指導を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善を行い、GIGAスクール構想の実現によるICT環境の活用、及び少人数によるきめ細かな指導体制の整備、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことが提言された。

本研究所においては、令和4年度から3か年計画で「学ぶ意欲」、「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」をキーワードに、授業改善や学習指導の在り方の究明に取り組んでいる。

今年度は、単元縦断×教科横断を意識した授業づくりの視点を取り入れた研究を具体的に進めることによって主題に迫るとともに、都城学校教育ビジョンの具現化につなげようと考えた。

III 目指す児童生徒像

「わかる」「できる」喜びを実感するとともに、学びを生活に生かそうとする児童生徒

IV 研究の目的

1 「学ぶ意欲を高める」ために

単元縦断×教科横断の考え方を基に、児童生徒の問いを生かした単元設計をすることで、児童生徒に「わかる」「できる」喜びを実感させる。そして、この学びのサイクルを繰り返すことは、児童生徒の学ぶ意欲を高めることにつながると考える。

また、STEAM教育では、科学実験、技術工作、アートプロジェクト、数学的探究など多様なアプローチを通じて学習が進められる。これにより、様々な学びのスタイルに対応しながら学んでいく子どもたちの姿が期待できる。単に知識を詰め込むのではなく、子どもたちが主体的に学び、自分の興味や関心を追求できる環境を提供することで、学ぶ意欲を自然に引き出すことができると考える。

さらに、より学びの意欲を高めるための効果的なICT活用について、教科横断的な視点やAIドリル(Qubena)活用について考える。

2 「確かな学力の向上」ために

昨年度まで国語科班の研究構想のベースとなっていたIOR学びのサイクルモデルと、算数科班の研究構想のベースとなっていた単元縦断の考え方や指導の工夫を生かして、本年度はどの教科においても子どもが主体となる授業モデルの基盤を作ることを目指す。

そのために、以下の3点を繰り返す形で学習を行う。

- ① 問いを見出すための課題を共有し、一人一人が問いをもつ。
- ② 1単位時間で、「問いをもつ→課題に取り組む→学びを表現する→次の学習を見通す」の学習過程を繰り返す。
- ③ 単元終末では、課題を解決し、得た学びを他の教科や次の学年と関連させて、次の学習へとつなげる。

また、STEAM教育では、科学、技術、工学、芸術、数学といった多岐にわたる分野の知識を統合的に学ぶことができる。そこで、教科横断の考えを意識しながら、子どもたちの多様な学習方法と実践的なアプローチを通じて、児童生徒の総合的な学力を向上させることができ、これにより、単なる知識の詰め込みではなく、実際に役立つ深い理解とスキルが身に付くと考えられる。

さらに、ICT活用の視点を導入し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた手立てについて模索する。また、AIドリルの活用に伴う評価を通して、確かな学力の向上につながると考える。

V 研究構想図



所員紹介

☆ 都城市教育研究所 所長 曾原 良平
☆ 学校教育課担当指導主事 石塚 啓祐 黒田 勝彦



主任



晋 真吾<白雲小・中学校> (STEAM教育班)

- 担当学年：中学2年生
- 趣味：息子たちのバスケットを見ること
- 休日：体育館でバスケットを見てるか審判するか
～ひとこと～ みんなと一緒に楽しく1年間学びたいです。

教科班



大迫 伸 (班長)



永田 光遵



立石 健太



片平 貴之

大迫 伸<祝吉小学校>

- 担当学年：6年生
- 趣味：サッカー
- 休日：家族とお出かけ
今年度も学びの機会を頂けて嬉しく思っています。先生方の学びになる研究にしていきたいです。

永田 光遵<富吉小学校>

- 担当学年：5・6年複式
- 趣味：釣り 野球観戦 将棋
- 休日：息子、娘と遊ぶ
自分にとっても皆様にとっても意義のある研究所活動となるよう頑張ります。

立石 健太<菓子野小学校>

- 担当学年：5年生
- 趣味：スポーツ観戦 囲碁
- 休日：スポーツ観戦
都城の子どものためになる実践ができるように、所員の先生方と協力して頑張ります。

片平 貴之<中霧島小学校>

- 担当学年：6年生
- 趣味：熱帯魚
- 休日：娘と遊ぶ
研究所1年目で、右も左も分からない状況ですが、精一杯新しいことに挑戦していきます。

STEAM教育班



大塚 洋樹 (班長)



晋 真吾



山口 遥生



衣笠 魁

大塚 洋樹<小松原中学校>

- 担当学年：2・3年生
- 趣味：子育て
- 休日：部活・子守り
都城市の教育レベルの向上のために尽力します。

山口 遥生<姫城中学校>

- 担当学年：2年生
- 趣味：ランニング 野球観戦
- 休日：ランニング
研究所で学んだことを、これからの教員人生に活かしていきたいように頑張ります。

衣笠 魁<中郷中学校>

- 担当学年：3年生
- 趣味：料理、旅行
- 休日：お出かけ
新たな視点の教育に驚きがたくさんあります。多くの先生方ともその情報を共有していきたいです。

ICT班



山田 駿 (班長)



萩原 慶季



黒岩 光貴



白尾 佳資

山田 駿<明道小学校>

- 担当学年：6年生
- 趣味：バンド活動 登山
- 休日：登山
2年目になります。ICT班として、できること精一杯頑張ります！よろしくお願いします！

萩原 慶季<東小学校>

- 担当学年：6年生
- 趣味：バスケット 映画鑑賞
- 休日：バスケット 審判
昨年に引き続き、今年も挑戦する研究所の名の下、精一杯楽しみながら頑張ります。

黒岩 光貴<志和池小学校>

- 担当学年：2年生
- 趣味：ジョギング 料理
- 休日：ジョギング 娘と遊ぶ
所員の皆様との学びを楽しみ、市内の学校の先生方に様々な情報を発信していけるよう努めます。

白尾 佳資<西中学校>

- 担当学年：3年生
- 趣味：飲み
- 休日：飲み
都城市の教育に貢献できればと思います。役立つ成果を全体に共有できるよう頑張ります！